

【選択必修】キャリア教育の理論と実践に関する一考察

田村 徳至

1 講習の概要

一昨年度よりそれまでの教員免許状更新講習の実施方法が変更となり、選択必修という形式で実施した2年目である。講習内容はキャリア教育に係わる内容全般と確認テストである。今年度は7月と11月の2回、松本キャンパスにてそれぞれ6時間実施した。

主な内容としては、午前の最初の1コマ(90分)を田村が、キャリア教育が求められている社会的背景などキャリア教育に係わる基本的な内容の解説を行った。

講習は各回ともにパワーポイントを使用した。導入として、文部科学省がキャリア教育として有効であるとした邦画のタイトルを考えてもらった。このことを通して文部科学省が子供たちの多くが観るであろう映画の内容がキャリア教育と深く関わっていることを把握してもらうこととした。映画の中身としては、①主人公が様々な体験を通して様々な人と出会い、その助力を得つつ、困難を乗り越えて大きく成長していく姿が描かれているもの(アニメ:魔女の宅急便)、②自分の将来を決められない高卒の都会育ちの主人公が田舎暮らしや魅力的な村人に囲まれ成長していく姿が描かれているもの(WOOD JOB! ウッジョブ)、③主人公が自らの信念に基づき、様々な困難を乗り越えて真実を追究していく姿が描かれているもの(HEARO)を取り上げた。子どもたちへのキャリア教育を初めとしたさまざまな学校教育活動に役立てていくことを考えると、これらの映画の活用方法があるのではないかと考える。

しかし、実際に学校の授業(特別活動や総合的な学習の時間)の中で児童生徒全員に視聴させることについては、教師がしっかりとしたねらいを定めておく必要がある。映画を全て視聴するのではなく、教師が事前に「主人公が様々な困難を他者の助けを得つつ、大きく成長していく場面や困難を乗り越えて真実を追究していく場面」などポイントを絞って視聴させることが重要である。

本講習は、受講される先生方の校種を制限していない。そのため、事前に受講希望があった一番多い校種の先生を対象として講習内容を決めている。

7月に実施した時は、午前中後半の1コマ(90分)はゲストティーチャーとしてキッセイコムの人事担当の方(城取さん・唐澤さん)をお招きして、高卒・大卒の就職率や今の企業が求めている一般的な人物像などについて講演していただいた。先生方からは好評であった。参会者からの質問で多かったも

のはやはり、企業が採用時に求める人物像（学生像）であった。り、特に採用時に求められる人物像に係わる質問が多数寄せられた。

11月に実施した時は、信濃毎日新聞社の松本タウン誌編集長の井上さんをお招きした。女性という視点からのキャリア形成（就職・結婚・子育て・仕事）を自分自身がどのように行ってきたかについて講演していただいた。特に、女性の先生方からは、好感を持って受け入れられた。

午後は、今年度もゲストティーチャーとして明るい選挙推進委員会の金井さんをお招きして主権者教育という視点からキャリア教育を見つめ直すという内容で講習を行った。個人ワーク・グループワークを行いながら理解を深めさせる手法を行った。主権者教育の一つとして、松本深志高校で行っている折衝会（部活動等の予算を決める話し合い）の様子や小学校で行った給食のメニューに係わる演説・投票のビデオを視聴した。昨年度と比較すると先生方の反応としてはおおむね良好であった。昨年度は講習内容である主権者教育とキャリア教育の関係性が理解しにくかった先生が多くみられた。今年度は昨年度の反省を生かし、午前中の講義から主権者教育とキャリア教育の関係性について基本的なことを講義し、ゲストティーチャーの金井さんも両者の関係性について丁寧にお話していただいたこともあり、昨年度と比較すると理解できた度合いが増加している。しかし、参会者の全員が関係性を理解できたわけではないので、更なる改善が必要である。

2 成果と今後の課題

①本講習の成果（本講習に対する評価）

現職の先生方のニーズとして、明日からの授業にすぐに活用することができる知識・技能の取得が第一である。8月に受講した先生方（計46名）のアンケート結果は、下記のとおりである。

	本講習の内容・方法についての総合的な評価	本講習を受講した最新の知識・技能の習得の成果についての総合的な評価	本講習の運営面（受講者数・会場・連絡等）についての評価	全体平均
今年度	3. 3	3. 4	3. 4	3. 4
昨年度	3. 1	3. 0	3. 2	3. 1

*本評点は7月実施の講習のものである。

各項目は、よい4点、だいたいよい3点、あまり十分ではない2点、不十分1点の4点法で計算した。

事後アンケートの平均得点からすると、本年度の本講習内容は昨年度と比較すると全てにおいて得点が向上している。このことから講習内容を詳しくした成果が表れていると考える。自由記述では、内容そのものに対しては特に不満というものは見られなかった。「すでに知っているものに関してはよい復習の機会となった」「グループワークでの思考の時間をもっと多くとってほしかった」「講習内容に関して実践するための準備時間が現場であればよいのだが・・・」という内容のものが多かった。

約2時間半の午後の講習内容を絞り、思考の時間を増加させるなどの改善が必要である。

来年度もキャリア教育の本質（社会人基礎力やライフキャリアの虹を活用した内容）と主権者教育とキャリア教育の関係についての講義と演習を中心に講習内容を組もうと考えている。

すでに平成28年から18歳に選挙権が与えられている。高校3年生の中に生まれ月によっては国家・地方の議員・首長の選出選挙に投票することができる高校生がいるようになった。高校生から主権者教育を行っても間に合わないのである。18歳選挙権制度の導入で、今まで以上に中学校段階・小学校段階で子どもたちの発達段階に応じた主権者教育を実施することが重要になっている。今一度、日本の将来を託す若者を育てるという視点に立ち、主権者教育とキャリア教育の関係性を考えることが大切である。

私もまた、来年度新たな気持ちで教員免許状更新講習に取り組み、受講される先生方が、“受講してとても参考になった”“夏休み明けの授業への意欲が湧いた”などと実感してもらえるような講習を目指し努力していきたい。